

令和5年度 道徳教育 全体計画

学校番号	34	学科	高等学校	全日制	課程	普通	科
------	----	----	------	-----	----	----	---

学校教育目標	
I 一人ひとりに応じた学力をつける (1) 基礎基本の徹底 (3) 話す力・読む力・書く力の重視	(2) 指導方法の工夫・開発 (4) 受験学力の向上
II 個性を大切にし、「創造力」を培う (1) キャリアデザインを意識した学校生活の充実 (3) 一人ひとりの生徒との対話の重視	(2) 基本的な生活習慣の確立と健康な心身の育成 (4) 人権教育(いじめ・体罰等の防止)の一層の充実
III 地域に根差した開かれた学校づくりを進める (1) 授業の公開	(2) 学校評議員制度の活用 (3) 地域学を中心とした外部講師の活用
重点目標	
①学習における基礎基本の定着と探究力を身につけるための個に応じた指導体制と教育課程をつくる ②自らの判断と行動による充実した学校生活の創出と、他者との協働によるキャリアの実現を支援する ③地域や各教育機関と連携し、地域社会を担う人材としての資質を育むとともに、積極的な情報発信に努める ④保護者との連携を密にし、いじめ・暴力・体罰のない安全安心で安定した学校づくりに努める	

道徳教育の重点目標	
1	学校における様々な教育活動を道徳教育の場としてとらえ、調和のとれた人格の育成を目指す。
2	学校における教育活動のあらゆる分野で、全職員で取り組む。
3	生徒ひとりひとりをみながらの個別指導と、自分の周囲をとりまく環境・状況を意識させながらの集団指導を調和させて行う。
4	高校独自ではなく、保護者、地域の方々、地域の小・中・高の学校、その他関係期間と広く連携して行う。

学年	目標	キャリア教育	ホームルーム活動	生徒会活動・部活動等
1年	よりよい学校・社会の構築につながるルールやマナーについて理解し、基本的な生活習慣を身につけるとともに、人との関わりを通じて自己を見つめ、道徳性を養う。	各々がキャリアデザインの実現を目指す中で自己理解・他者理解を深め、共に学びあう力を養成する。 SSTの活用を図っていく ○自己理解・他者理解 ○進路理解・社会理解 ○コース・科目選択を通じた進路選択	集団内でのルールやマナーを学ぶ。協力して物事に取り組むなど他者との関わりを通して自己を見つめ、よりよく生きていくための基本となる態度を身につける。 ○チームビルディング・アイスブレイク ○文化祭クラス企画 ○蓼科学(総合的な探求の時間) ○SNSの使い方 ○人権学習	他人とともに行動する道徳的組織的な活動とは何かを、上級生とともに行動から学ぶ。 ○生徒会活動への参加 ○生徒会活動における役割・仕事の履行 ○文化祭のクラス企画への参加 ○部活動への参加
2年	修学旅行の平和学習等を通して、道徳・人権問題に関する歴史的理解を深め、現代社会における道徳教育の必要性や他人を思いやることから生まれる平和の尊さなどを学習する。	各々が進路実現を目指す中で自己理解・他者理解を深め、共に学びあう力を養成する。 ○自己理解・他者理解 ○進路理解・社会理解 ○コース・科目選択を通じた進路選択	修学旅行等の学校外での行動の中で、日常生活におけるルールやマナーを学ぶ。集団の中で他人と一緒に活動する上で必要な事などを ○修学旅行での班行動 ○文化祭クラス企画 ○蓼高タイム ○SNSの使い方 ○人権学習	組織的な活動の経験を積むとともに、上級生から活動を引き継ぎ、自らが中心となって進めていくことで、すべての人が尊重される社会の実現に向けた活動に取り組む。 ○生徒会、部活動の運営引き継ぎ ○文化祭における学年全体での企画推進
3年	社会の諸課題に対して主体的に解決していこうとする資質・能力を育成し、全ての人々が尊重される社会の実現に係る道徳的実践意欲と態度を涵養する。	各々が進路実現を目指す中で自己理解・他者理解を深め、共に学びあう力を養成する。 ○進路研究 ○将来設計	社会の構成者としての自覚を持ち、社会で生きていく中での責任についても考え、諸課題に主体的に解決していく態度を養う。 ○職場体験、職場訪問 ○人権学習	生徒会・部活動活動の中心として過ごす事でその良さ・課題を知り、将来自分が参加する社会が、すべての人が尊重される社会となるように、その実現に向けた活動と意識形成に取り組む。 ○生徒会の運営、継承 ○文化祭の全体運営、継承

各教科	
国語	文章読解やディスカッションを通して人間や社会に対する理解を深め、他者と協働しつつ主体的に生きていく態度を養う。
地理歴史	過去から現在へと繋がってきた人びとの営みを学ぶ中で社会に存在する課題を見だし、今の自分たちのあるべき姿をさぐる態度を養う。
公民	現在の社会・政治の仕組みを学びながら、その一員としての自覚を持ち主体的に参加する態度を養う。
数学	数学の学びを通して、合理的思考を身につけさせ、平等、公平について考えさせる。さらにグループ活動を通して、コミュニケーション能力の向上をはかる。
理科	自然の事物・現象を学習する活動を通して、道徳的判断力や真理を大切に、他者の意見も受け入れることができるような態度を育成する。
保健体育	他者と協力し合意形成を図りながら共に課題解決に取り組むことで、仲間とともに学ぶ喜びや楽しみを感じ、相手を思いやり尊重する態度を養う。
芸術	生徒の個性を尊重した授業を展開する。他者を認めることによって自己を見つめ、表現することの楽しさを追求しつつ、豊かな情操を培う。
外国語	世界の様々な文化や社会の諸問題を扱う英文教材を学習することにより、異文化(他者)を理解したり、世界情勢や人類が直面している諸問題を自ら考える態度を養う。
家庭	将来の自立に向けた学習を通じ、家族や保育・高齢者分野の単元で共に生きる=「共生」について学び、他者理解についての考え方や実践的な態度を育む。
情報	社会において情報が与えるメリット・デメリットを理解し、適切に扱える態度を育てる。また、情報機器の活用による正しいコミュニケーションが実践できるようにする。
福祉	介護の理念や実習に関する学びを通して、人権を尊重する考え方や態度を身につける。
総合的な探究の時間	高校卒業後の進路を主体的に選択し、自らの人生を拓くために必要な能力や態度について学ぶ中で、集団や社会に必要とされる人権尊重の考え方や態度を見に付ける。

家庭・地域との連携	小・中学校での指導経過を知るため、地域における学校研修や各種研究会において小・中学校と連携をもつ。また、近隣の高校とも連携を保つ。さらに地元自治体の道徳・人権教育関係部署など関係機関と連絡を密に取り、地域住民等の協力を得ながら、道徳精神の醸成を進める。
-----------	--